

質問

80歳の母は、外来通院で抗がん剤治療を続けています。独り暮らしで最近では食欲もなく、歩くのもおぼつかない状態です。母親は「できるだけ家で過ごしたい」と言います。娘の私は仕事と家庭があり、どうサポートしたらいいのか分からず不安です。

治療中の在宅支援



後藤 由香

徳島大学病院

患者支援センター

看護師長

回答

大切なお母さまを介護したいと思う気持ちは自然なことですが、どうか一人で抱え込まないでください。治療の副作用で生活に支障が出ているようなので、まず主治医から治療方針や今後予測される状態、副作用がどの程度改善されるのかを聞いた上で、本人と家族の希望を伝え、今後の生活をどうするか考えましょう。

多くのがんは「長く入院して治療するもの」から「できるだけ普段に近い生活の中で療養を続けていくもの」になり、入院期間は短くなっています。治療方法が進歩し、複数の病気を抱えながら住み慣れた地域で暮らす時代が変わってきました。

介護サービス利用 検討を



た。ただ高齢者は、次の外来通院の時に相談しようと思っている間に体調が悪くなるのがよくあります。

今回の場合、体調が改善しないようであれば介護保険を申請し、訪問看護や訪問リハビリ、デイサービスなどを要介護度や必要性に応じて組み合わせる方法があります。

介護や訪問リハビリ、デイサービスなどを要介護度や必要性に応じて組み合わせる方法があります。いったん地域の病院に入院し、体調を整えて自宅に戻ることでもできます。病状によっては、治療内容や生活の場所を変える必要があるかもしれません。その時の病状などを十分説明した上で希望を

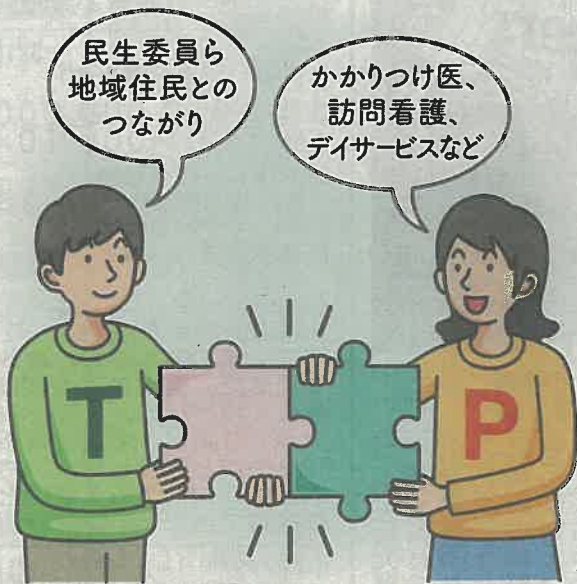
がん何でもクイズ

生涯のうち、日本人の何人に1人ががんになると言われているでしょうか。

- ① 2人 ② 3人 ③ 4人

行こうよ！がん検診

地域とのつながりも重要



「自宅に知らない人が入るのは嫌だ」「デイサービスは苦手」などと拒否する人もいますが、試みに利用してみてください。「日中に家族が不安なく仕事ができる」「いつでも相談できる」と利用を継続する人が多いです。また、独り暮らしの人は民生委員や町内の知人らとつながっておくと、ちょっとした異変に気付いてもらえるきっかけにもなります。一人で悩まず、困っていることがあれば相談してください。

聞き、本人と一緒に決めていくことが大切です。

主治医に相談することにも、在宅支援について病院内であれば、がん相談支援センターや地域連携室などの看護師、ソーシャルワーカー、相談員が対応します。地域の相談窓口としては地域包括支援センター、訪問看護ステーション、かかりつけ医、ケアマネジャーなどがあります。

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442



(平日午前
8時半から
午後5時まで)
へ。